

医療法人川崎病院
公的医療機関等2025プラン

平成30年 7月 策定

【 医療法人川崎病院の基本情報 】

- ・ 医療機関名 : 医療法人川崎病院
- ・ 開設主体 : 医療法人
- ・ 所在地 : 神戸市兵庫区東山町3丁目3 - 1
- ・ 許可病床数 : 278床
(病床の種別) HCU 4床・急性期一般病床 221床・地域包括ケア病床 48床・健診 5床
(病床機能別) 高度急性期病床 4床・急性期病床 221床・回復期病床 53床 (但し健診5床を含む)
- ・ 稼働病床数 : 278床
(病床の種別) HCU 4床・急性期一般病床 221床・地域包括ケア病床 48床・健診 5床
(病床機能別) 高度急性期病床 4床・急性期病床 221床・回復期病床 53床 (但し健診5床を含む)
※兵庫県ホームページ記載の2016年稼働病床数とは一致していない。理由として病床機能報告での稼働病床数の誤解釈による報告ミス、及び健診病床が現在の病床機能報告制度では報告できないシステムになっているため数値に差異が生じた。正しくは278床。(県に報告済み)
- ・ 診療科目 : 内科・糖尿病内分泌内科・血液腫瘍内科・腎臓内科・消化器内科
循環器内科・外科・整形外科・皮膚科・泌尿器科・婦人科・眼科
耳鼻咽喉科・形成外科・放射線科・麻酔科・歯科口腔外科・肛門外科
臨床検査科・救急科・血管外科・消化器外科
- ・ 職員数 : 464名
 - 医師 50名
 - 看護職員 229名
 - 専門職 73名
 - 事務職員 79名
 - その他 33名

【 1. 現状と課題 】

① 構想区域の現状

(1) 地域の人口及び高齢化の推移

表1は、兵庫県・神戸圏域における2015年・2025年・2040年の将来推計人口および高齢率の動向を示している。

2025年の兵庫県全域および神戸圏域の人口は、2015年に比べ95%程度減少し、2040年には85%前後にまで減少すると予測されている。

一方、65歳以上の高齢者人口は、団塊世代ジュニアが高齢者となる2040年ころまでは一貫して増加する。後期高齢者人口は、2030年ころピークを迎え、以降横ばい。そして団塊世代ジュニア世代が高齢者となる2045年～2050年にかけて再び増加を見るものと思われる。

表1. 将来推計人口・高齢化率の推移

		65～74歳	2015年比	75歳以上	2015年比	全人口	2015年比	65歳以上	75歳以上
兵庫県	2015年	790,915	100.0	710,427	100.0	5,532,477	100.0	27.1%	12.8%
	2025年	633,320	80.1	966,343	136.0	5,268,695	95.2	30.4%	18.3%
	2040年	732,276	92.6	967,997	136.3	4,673,709	84.5	36.4%	20.7%
神戸市	2015年	220,756	100.0	208,045	100.0	1,551,558	100.0	27.6%	13.4%
	2025年	179,845	81.5	288,856	138.8	1,501,306	96.8	31.2%	19.2%
	2040年	209,648	95.0	299,963	144.2	1,356,556	87.4	37.6%	22.1%

出典：国立社会保障・人口問題研究所（一部改変）

(2) 地域の医療需要の推移（法令及び国提供推計ツールを使用した病床数推計）

地域の医療需要の推移

表2. 都道府県間、圏域間の患者流動を反映した場合の推計

		2014年度	2025年度		差引
圏域	病床機能	病床機能報告 (稼働病床)	医療需要 (人/日)	必要病床数 (床)	正数過剰 △：不足
兵庫県	高度急性期	5,053	4,425	5,901	△848
	急性期	28,747	14,242	18,257	10,490
	回復期	4,506	14,877	16,532	△12,026
	慢性期	14,811	10,825	11,765	3,046
	病床数計	53,117	44,369	52,455	662
神戸市	高度急性期	2,137	1,555	2,074	63
	急性期	8,380	4,609	5,910	2,470
	回復期	1,307	4,528	5,032	△3,725
	慢性期	3,207	2,421	2,631	576
	病床数計	15,031	13,114	15,647	△616

表 3. すべての患者が住所地域圏で受診すると仮定した場合の推計

圏域	病床機能	病床機能報告	医療需要	必要病床数	正数過剰
		(稼働病床)	(人/日)	(床)	△：不足
兵庫県	高度急性期	5,053	4,576	6,100	△1,047
	急性期	28,747	14,534	18,636	10,111
	回復期	4,506	15,189	16,876	△12,370
	慢性期	14,811	10,603	11,525	3,286
	病床数計	53,117	44,902	53,137	△20
神戸市	高度急性期	2,137	1,418	1,880	247
	急性期	8,380	4,493	5,760	2,620
	回復期	1,307	4,486	4,984	△3,677
	慢性期	3,207	2,944	3,200	7
	病床数計	15,031	13,341	15,834	△803

神戸圏域は、慢性期を除いては、他圏域（県内及び近隣他府県を含む）からの流入患者が、流出患者に比して多い傾向がみられる。総人口は減少するものの、高齢化の加速により医療需要の増加が見込まれる。2025年には、高度急性期病床と慢性期病床は若干の過剰、急性期病床は2,620床の過剰の状態となるが、逆に回復期病床は、3,677床の不足が見込まれる。

また、在宅医療の医療需要は、2025年には26,547人/日と2013年の16,765人/日から1.5倍程度の増加が見込まれる。（兵庫県地域構想 平成28年10月 兵庫県の第3章資料より）

(3) 地域の医療受給の特徴

神戸圏域では、慢性期を除くすべての病床機能で他圏域からの患者流入が患者流出を上回っている。一般病床等は充足、療養病床は不足であり、疾患ごとの充足率では、がんと脳卒中では充足、脳梗塞、くも膜下出血、急性心筋梗塞、糖尿病では若干の医療提供体制の不足がみられる。

② 構想区域の課題

(1) 機能別医療提供の体制

2025 年における医療機能別「必要病床推計」と「病床機能報告」の比較検討で明白な通り、急性期病床は過剰、回復期病床は不足であり医療需要を鑑みたバランスよい医療提供体制の整備が求められる。また、厚生労働省方針を踏まえた在宅及び入院の医療提供体制も検討していく必要がある。

(2) 5 疾病対策の充実

死亡原因上位を占める「がん」「脳卒中」「急性心筋梗塞」および合併症の重篤化が生命に重大な危険を及ぼす「糖尿病」等に対して、さらなる医療提供体制の充実・強化を図る必要がある。圏域内では、脳梗塞、くも膜下出血、急性心筋梗塞、糖尿病については若干の医療提供体制の不足がみられることからその強化も検討されるべきである。

(3) 医療・介護連携の推進

認知症患者など医療、介護ともに必要とする患者を地域全体で支えていく制度や仕組みの構築が急務である。また入院医療から在宅医療、終末期医療までを切れ目なく繋ぐサービスの提供が必要である。入院医療からの在宅医療への移行には、退院調整機能、受け皿となる在宅医や在宅サービス（訪問看護、訪問リハビリなど）の充実と職種間の連携も求められる。

(4) 医療従事者の確保

不足が懸念される救急担当勤務医師、総合診療科医師、産科医師、小児科医師や、定着し医療圏実情をしっかりと把握した勤務医師等、確保が必要な医師には枚挙に暇がないと思われる。看護職員については県内の離職率は高く、育成に至らない離職等もあり、今後は定着化、定着化からの真の専門職としての看護職員の育成をさらに強化する必要がある。

③ 自施設の現状

・基本理念

「良質な医療を提供し、信頼される病院に」

・基本方針

1. 地域の人々の疾病の治療と健康の維持に、他の医療機関と連携し貢献します。
2. 患者さんの権利と尊厳を尊重し、病状と治療方針を十分に説明し、理解していただくよう努めます。また患者さんの個人情報決して第三者に漏らすことはありません。
3. 患者さんが心地よく治療に専念できるように患者サービスに努力します。
4. 医療人としての使命感を持ち、より高い知識と技術の習得に努力し、安全で高度な医療を提供します。
5. 働きがいのある職場環境を形成します。

・スローガン

「私たちは、地域一番の患者様の心に寄り添う病院を目指します」

・診療実績

	2015年度	2016年度	2017年度
入院延べ患者数 (人)	81,944	81,131	86,100
一日平均 (人)	223.9	222.3	235.9
病床稼働率 (%)	81.6	81.2	86.4
外来延べ患者数 (人)	183,633	174,344	175,841
一日平均 (人)	680.1	645.7	648.9
平均在院日数 (日)	15.6	15.2	15.7
紹介率 (%)	42.3	47.5	52.4
逆紹介率 (%)	65.0	77.9	91.6

・職員数

職名	現在人員	職名	現在人員
医師	50名	薬剤師	14名
看護師	226名	栄養士	4名
准看護師	3名	診療放射線技師	12名
看護補助者	21名	臨床工学技士	14名
臨床検査技師	18名	事務職	79名
理学療法士	10名	その他	12名
作業療法士	1名	計	464名

・特徴

(1) 地域との連携強化

2006年に地域医療連携室、2011年に在宅医療支援室を設置し、さらに2016年には地域包括ケア病棟の運用を開始した。在宅や施設からの患者の迅速な受入れ、治療後の在宅復帰をスムーズにする体制を強化している。

(2) 患者支援体制の充実

新たな取組みとして、専任の看護師や社会福祉士、その他のコメディカルスタッフから成る総合的な患者サポート部門である患者支援センターを2017年1月に設置した。患者や家族、地域住民に対して、外来診療から入院、退院までのシームレスな支援を提供することを目的として、退院支援のみならず入院前支援、さらに外来支援体制の充実を図っている。

(3) 救急医療の強化

「断らない救急」をモットーに24時間365日の救急医療体制を維持しており、救急隊と連携、協力し、年間2,600件以上の救急車を受け入れている。

(4) 今後の取り組み

①患者支援センター・救急医療体制の強化を図り、当地域の医療事情にマッチしたより充実した医療が提供できるようその役割を果たしていきたいと考えている。

②現状の機能・特色を充実し発展させる予定である。

- ・ 消化器病センターの充実（内視鏡診断・内視鏡手術、画像下治療（IVR）などの進歩に対応）
- ・ 糖尿病センターの充実（日本糖尿病学会教育施設）
- ・ 心臓血管病センターの充実（24時間対応、CAG・PCI・PTA・アブレーション等による集約的治療）
- ・ 救急外来や重症患者収容病棟の強化
- ・ 増加する高齢者への対応を目的とした職員教育（主に認知症患者・せん妄患者）

・他機関との連携

当院は2017年1月より総合的な患者サポート部門として患者支援センターを設置しており、神戸市兵庫区を中心に病院や診療所と連携を取りつつその他の医療、福祉関連施設（調剤薬局、訪問看護、介護施設、老人保健施設、老人ホーム等）と地域での役割分担と連携を保持推進する体制をとっている。

表 4. 神戸市兵庫区中心の連携医療施設（2018年3月1日現在）

施設	施設件数
兵庫区診療所	70
兵庫区歯科医	47
長田区診療所	33
中央区診療所	58
病院	11
老健・特養訪看（兵庫・長田）	46
合計	265

④ 自施設の課題

(1) 救急医療体制の維持

神戸市二次救急の旧市街地西ブロックの幹事病院として、内科、循環器科、整形外科を中心に24時間365日の救急受け入れ体制を維持しているが、最近大学からの応援医師を含め救急担当者の確保及び定着に難渋するケースに遭遇している。救急医療体制を強化すべく現在救急専門医、看護師の確保を積極的に行っているが、中規模病院としては現状として救急体制の維持困難リスクを常に孕んでいる。

(2) 看護職定着の問題

看護職の離職率が他病院に比べ比較的高く、とりわけ深刻な課題としてとらえ新卒採用時からラダーにそった教育研修を実施しているが、入職後3~5年で公的病院に転職する状況が散見される。また、育成に至らない離職等もあり、教育体制、待遇改善、病棟事務スタッフの強化を行っているが、大きな改善の兆しが見えないのが現状である。今後はまず看護職員の確保および定着化を図った上で、真の専門職としての育成を強化することが喫緊の課題である。

(3) 特定領域における専門性の確保

二次救急体制においては脳外科疾患の需要が非常に高いが、当院は脳神経外科を標榜しておらず、医師確保の目処もたっていない。現在、脳卒中に関する急性期医療は、兵庫区内の専門機関（吉田病院）及び近隣の地域医療支援病院との連携を強化し、切れ目のない救急体制の維持に努めているが、即対応への救急受け入れリスクが存在する。

認知症患者は確実に増加傾向にあり、専門看護師による認知症ケア加算1などを取得して認知症対策を講じている。また、認知症疾患医療に関しては、兵庫区内の専門機関（湊川病院）との連携強化等をさらに充実させる必要がある。

(4) 在宅医療への取り組み

地域包括ケアシステムにおいては、在宅医療との連携、あるいは積極的な参画が非常に有用である。在宅医療施設との連携については、地域医療支援病院として積極的な各種の情報交換を実施し、兵庫区の中核病院として地位を確立しつつある。その一方で当院からの看護師、セラピスト等の在宅への展開は人的、コスト的要因により十分に対応できていない。

(5) 経済的基盤

新棟建設による固定費の増加、人件費率の高止まり、設備投資の増加により利益の確保に苦慮している状況が継続している。医業利益率1~2%の維持が病院目標数値として常態化しているため、外部環境の急激な変化により一挙に赤字経営に陥るリスクが存在している。地域の中核病院として経営基盤の更なる強化が必要である。

【 2. 今後の方針 】 ※1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

(1) 災害対応病院としての役割の充実

神戸市指定の災害対応病院として、災害時に必要な医療を迅速かつ的確に提供できるよう人的支援、医療機材及び薬剤の確実な供給体制を構築してゆく。具体的には、AMATへの積極参加による災害時対応の経験の蓄積、防災委員会主導による防災訓練の実施、事業継続計画（BCP）に基づいた防災マニュアルの充実を図る。また、マニュアルに基づく全職員への役割分担の徹底等を実施し、ソフト面における災害に強い医療施設の構築を目指す。

(2) 地域包括ケア病棟の充実

地域医療構想あるいは地域包括ケアシステムに沿う形で、急性期の48床分を地域包括ケア病床へすでに転換している。今後は、地域包括ケア病床の目的の一つである亜急性期患者の受け入れをより一層強化し、開業医および在宅施設からの直接入院を受け入れていく。また、ニーズの高いレスパイト入院についても、年末年始などの長期休日などに合わせた年間入院スケジュール管理を実施し、更に地域に開かれた病棟となるような地域包括ケア病棟の運用を目指す。

(3) 救急医療の更なる充実

課題としても記載している項目であるが、救急医療の更なる充実が病院の生命線としての位置付けであり、維持継続はマストであり、救急車出動件数が神戸で最多である兵庫消防に隣接する当院において更なる充実が地域ニーズとも合致する方向である。神戸市二次救急西ブロック幹事病院として救急当番日の拡充はもとより、救急システム等を使用した近隣二次救急病院の輪番強化を実施する。また救急隊への教育受入れ体制の強化、症例検討会により情報交換を密に行いスムーズな救急体制の構築を継続しているところである。

(4) 診療科の拡充

心臓血管外科外来の増設（平成26年7月）。2名の総合診療科医の招聘による総合診療科の創設（平成29年4月）精神神経科医招聘による精神科外来創設及び精神科リエゾン回診の開始（平成29年4月）等、診療科の拡充を目指すとともに、ドクターズクラークの積極配置により大学応援医師の負担軽減も実行中であり、常勤医師不在診療科である泌尿器科、皮膚科、婦人科の診療の安定的な運用を行うと共に診察日の増加を目指す。

(5) 認知症対策

当院にはもともと高齢患者が多く認知症比率も高い。今後年々認知症患者の増加が見込まれる。入院患者を対象とした認知症サポートチームの活動強化、せん妄患者に対する精神科リエゾンチームの活動強化を行い、院内での認知症対策を充実させる。

(6) 所在地におけるハブ病院としての役割

新たな取組みとして、外来診療から入院退院までの一括支援体制を充実させるべく、従来からの病床管理、在宅医療支援室、地域医療連携室を統合し、新たに入院時支援専従の看護師や社会福祉士、その他のコメディカルを含むスタッフによる総合的な患者サポート部門として患者支援センターを設置した。支援センターとして患者家族に対する外来入院一環サポート体制の充実は勿論のこと、患者支援センターによる地域の開業医、各種在宅事業所との勉強会や研修会を通じた地域連携強化を実施する。立地的な利便性を生かし、5つある研修会議室、図書室を公開し地域医療従事者の交流を含めたハブ病院としての役割を果たしたい。

(7) 5 疾病 5 事業

5 疾病では「がん」「心血管疾患(急性心筋梗塞)」「糖尿病」をカバーしており、特に心筋梗塞入院患者数、糖尿病疾患入院数については民間病院として常に実績上位に位置している。

「心血管疾患(急性心筋梗塞)」については心臓血管センターを中心として 24 時間 365 日体制で CAG・PCI・PTA・アブレーション等に対応している。「糖尿病」についても指導医 2 名を含めた糖尿病ケアチームを中心とした教育入院や指導及び治療を積極的に行っており、今後も医師の増員を含め更なる充実を図りたい。「がん」については兵庫県指定がん診療拠点病院として治療の充実、また登録医との連携強化など中規模病院としてきめ細やかな対応を今後も実施してゆく。

「脳卒中」「精神疾患」については現時点では常勤専門医が不在であるものの、応援医師の確保や兵庫区内の専門病院とのより一層の連携強化をはかりその役割を果たしていきたい。

5 事業については 2-①-(1)に示すように「災害医療」、及び 2-①-(3)に示すように「救急医療」の充実強化を今後もはかってゆく。

(8) 地域医療構想調整会議

公的医療機関等 2025 プランにおいて 2 次救急協議会幹事病院として継続参画しているが、今後は地域医療支援病院として、公的な病院の責任において中核的な会議のメンバーとしてその責任をまっとうしてゆく所存である。

② 今後持つべき病床機能

前提として、2012 年の新棟建設時に急性期病床含め 19 床を削減。2016 年 8 月には急性期 48 床分を回復期に、更に ICU 6 床を HCU 4 床に転換した。その都度患者層の変化や医療構想等の時代状況に合わせダウンサイジングや病床機能再編を実施したうえで、二次救急のレベル強化、あるいは地域包括ケアシステムを見据えた回復期の導入を実行してきたため今のところ病床機能の変更は考えていない。なお自院のウィークポイントである脳卒中に関しては、脳卒中専門病院との連携を更に強化し、救急医療の維持向上に努めてゆく予定である。

③ その他見直すべき点

【 3. 具体的な計画 】 ※2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

《 今後の方針 》

	現在 (2016 年度病床機能報告)		将来 (2025 年度)
高度急性期	6 床	→	4 床
急性期	259 床 (実際は 269 床) ※1		221 床
回復期	0 床 (実際には健診 3 床) ※2		53 床 (健診 5 床含む)
慢性期			
(合計)	265 床 (実際は 278 床) ※3		278 床

※1 兵庫県ホームページ記載の 2016 年稼働病床数の急性期は 259 床となっているが、実際には 269 床。不一致の理由として病床機能報告での稼働病床数の考え方を誤解釈し、誤った数値を病床機能報告で報告した事による。

※2 回復期の差異は現在の病床機能報告制度では許可病床である健診病床を報告できないシステムになっており稼働病床に加えなかった事による。

※3 合計の差異は※1、※2によるものであり、実際には高度急性期 6 床 + 急性期 269 床 + 回復期 (健診) 3 床 = 278 床。

(上記の差異については県に報告済み)

《 年次スケジュール（記載イメージ） 》

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	地域医療支援病院取得に向けて 取組み内容の策定及び実施		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 集中的な検討を促進 2年間程度で </div> <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 60px; height: 100px; background-color: #f96; margin-bottom: 5px;"> 第7期 介護保険 事業計画 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 60px; height: 100px; background-color: #90ee90;"> 第7次 医療計画 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 60px; height: 60px; background-color: #f96; margin-top: 5px;"> 第8期 介護保険 事業計画 </div> </div>
2018年度		地域医療支援病院取得	
2019 ～ 2020年度	当院の役割について地域医療構 想調整会議において関係者と協 議	当院の今後の機能の在り方を検 討	
2021 ～ 2023年度			

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

《 今後の方針 》

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

2017年度の当院の紹介率は52.4%であり地域医療支援病院としては低水準であるため、よりいっそう近隣開業医との病診連携や病病連携を強化していかなければならない。そのためにも神戸市医師会や関連機関との連携を密にし、地域における医療提供体制の充実を図っていく必要がある。

<u>医療提供に関する項目</u>	
・ 病床稼働率	90%以上
・ 手術室件数	250件/月以上
・ 紹介率	60%以上
・ 逆紹介率	90%以上
<u>経営に関する項目</u> *	
・ 人件比率	
・ 医療収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合	
<u>その他</u>	

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【 4. その他 】（自由記載）